

シシリムカ文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2021.7.21

No.11



すずらん観賞会の様子 昭和50年代以降、観賞用の通路や制限区域を設置して乱獲や踏圧を防ぐ対策が行われるようになった



様々なアイヌ語名が付けられているが、沙流地方ではセタブクサ（イヌ・ギョウジャニンニクの葉）などと呼ばれている

重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 11—

すずらん群生地（宿主別区域：牧野・牧野林とすずらん群生地の景観）

しゆくしゆべつ ぼくや
宿主別に所在する町有牧野は現在、和牛生産のための牧草地となっていますが、戦前は軍馬が林間放牧される牧場でした。芽生のすずらん群生地は軍馬生産の下で形成された群落で、その成立には植生の回復以上に放牧圧が高まる「過放牧」^{かほうぼく}が大きく働いています。林の中の放牧形態である牧野林において、有毒草本であるすずらんが残りやすい環境が作られていました。その後、この場所で馬を飼わなくなったこと等によってすずらんが被圧され、一時は数を減らしていましたが、現在では人が草刈り等をしてすずらんの育成を補助しています。

すずらん観賞会は1957年に第1回が行われて以来、毎年5月末～6月上旬にかけて催されています。約15ヘクタールに及ぶ宿主別のすずらん群生地を会場に、多くの観光客が集う平取町を代表するイベントです。この間、1979年に町花として制定され、1996年には群生地が町指定天然記念物に、2007年には重要文化的景観に選定される等の保全施策が拡充されてきました。

2021年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により観賞会が中止となってしまいましたが、次年度以降しっかりと開催できるよう引き続き群生地の保全に努めていく予定です。（長田佳宏）

